

今月のトピックス

- インフルエンザの集団感染から B 型が検出されました。病原体定点からはまだ検出されていません。季節型インフルエンザの A 型は未検出です。
- 髄膜炎菌性髄膜炎の報告が 1 件見られました。
- 水痘の報告が増えています。都筑区が高めです。
- 伝染性紅斑が増えています。瀬谷区と泉区が高めです。
- 流行性耳下腺炎が過去 5 年でも高めに推移しています。

平成 22 年 2 月 22 日から 3 月 21 日まで(平成 22 年第 8 週から第 11 週まで。ただし、性感染症については平成 22 年 2 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表

第 8 週	2 月 22 ~ 28 日
第 9 週	3 月 1 ~ 7 日
第 10 週	3 月 8 ~ 14 日
第 11 週	3 月 15 ~ 21 日

1 腸管出血性大腸菌感染症: 1 件の報告がありました。国内での感染です。感染経路は不明でした。

2 レジオネラ症: 1 件の報告がありました。感染経路は不明です。全国的にも患者報告数は増加傾向にあります。2009 年は全国で 712 件(肺炎型 681 件 ポンティアック型 23 件 無症状病原体保有者 8 件)でした。

表 1. レジオネラ症患者報告数, 1999~2008年

診断年	総数	男	女
1999*	56	42	14
2000	154	125	29
2001	86	78	8
2002	167	139	28
2003	147	127	20
2004	160	151	9
2005	281	252	29
2006	518	452	66
2007	668	527	141
2008**	686	529	157

*4~12月、**1~9月
 (感染症発生動向調査: 2008年 10月11日現在報告数)

3 HIV感染症: 2 件の報告がありました。2 月の追加報告も 2 件あり、計 4 件が新たに報告されました。4 件のうち、2 件はすでに AIDS の状態でした。HIV 感染症については、早い時期の感染の判明で、適切な時期に治療を開始できるほかに、パートナーへの感染予防等が可能なこともありますので、無症状の時期での判明が非常に重要です。

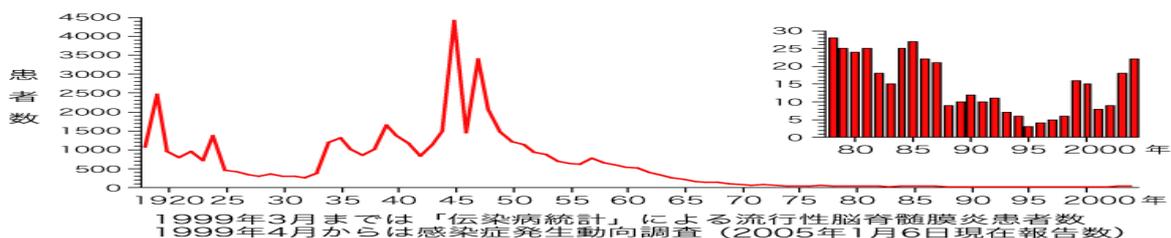
4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1 件の報告がありました。悪性疾患患者術後でした。

5 髄膜炎菌性髄膜炎: 1 件の報告がありました。国内に多いとされる B 群髄膜炎菌によるものでした。国内では終戦前後 4000 人を超す報告があり、現在では一桁の報告数と著減していますが、アフリカでは「髄膜炎ベルト」と称される高罹患地帯があったり、各国でアウトブレイクが報告されている等世界的には未だ重要な感染症です。諸外国では、健康保菌者は、5~20% と高いのに比べ、日本の健康保菌者は 1% 以下と低い状況ですが、流行を起こす可能性もあり、注意すべき感染症の一つです。今回の事例は予防内服等が行われ、感染拡大は見られていません。横浜市での直近の報告は 2005 年に 1 件ありました。



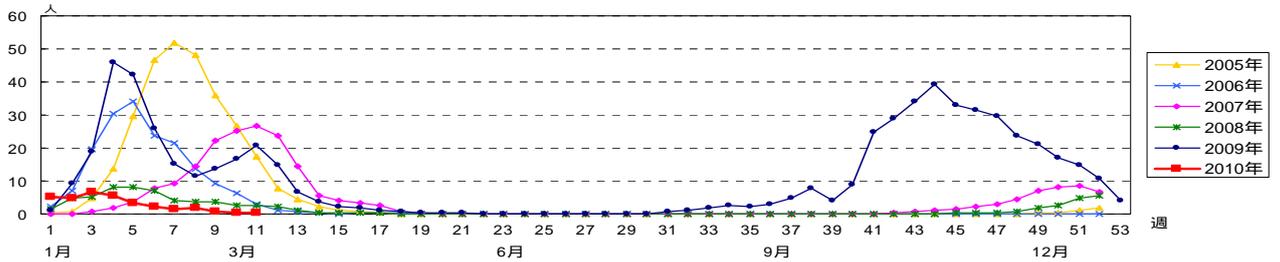
Infectious Agents Surveillance Report

図 1. 髄膜炎菌性髄膜炎患者報告数の推移, 1918~2004年

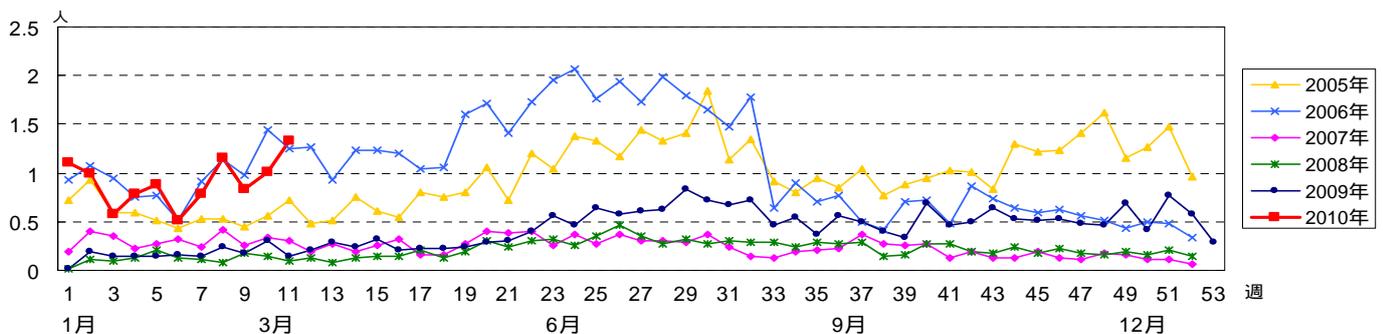


定点把握の対象

1 **インフルエンザ**:今シーズンは、昨年第 44 週にピークを示しましたが、その後漸減し、第 11 週は、定点あたりの報告数が 0.37 でした。神奈川県(横浜、川崎を除く県域 以後県域)では 0.31、川崎市 0.32、東京都 0.41、全国 0.41 と何れも低値です。定点医療機関にご報告いただいている迅速診断キットでは、A 型 24 件、B 型 28 件と B 型の報告が多くなっていますが、ピーク時の第 44 週には A 型 4181 件、B 型 8 件でしたので、全体の報告数は著減しています。



- 2 **RSウイルス感染症**:過去 5 年で最大の数値で推移していましたが、第 11 週は 0.09 と、例年レベルまでに落ち着いてきました。
- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下してきます。第 11 週は定点当たり 2.18 でした。県域では 1.41、川崎市 1.72、東京都 1.70、全国 1.61 でした。行政区別では磯子区 7.00、港北区 4.83、泉区 3.67 が高めです。
- 4 **感染性胃腸炎**:今年に入り報告数が増えていましたが漸減し、第 11 週は 8.88 でした。県域 11.58、川崎市 16.19、東京都 11.01、全国 10.06 と何れも横浜市より高めです。行政区別では泉区が 18.00 と比較的高値です。
- 5 **水痘**:例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、第 11 週は 1.82 と漸増しています。県域では 1.90、川崎市 3.00、東京都 2.06、全国 1.87 でした。行政区別では都筑区 8.50、神奈川 4.00、瀬谷区 3.00 が高めです。
- 6 **伝染性紅斑**:例年春先から夏にかけて増加が見られますが、第 11 週は 0.49 と漸増しています。県域では 0.53、川崎市 0.34、東京都 0.24、全国 0.17 でした。行政区別では瀬谷区と泉区が 2.00 と高めです。
- 7 **流行性耳下腺炎**:過去 5 年間でも高めに推移しています。第 11 週は 1.32 でした。県域では 1.24、川崎市 0.41、東京都 0.69、全国 1.157 でした。行政区別では泉区と瀬谷区が 4.33 と高めです。



- 8 **性感染症**:性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。
2 月は、1 月に比べて全体としては横ばいですが、淋菌感染症がやや増加しています。性器クラミジア感染症は男性 23 例女性 21 例、性器ヘルペス感染症は男性 9 例女性 12 例、尖圭コンジローマは、男性 3 例女性 6 例、淋菌感染症は男性 15 例女性 1 例と、1 月と同じ状況です。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。
横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>